

## 商品性の高い「丸系八つ頭」の栽培方法について

### 1 はじめに

「丸系八つ頭」は、農業技術研究センターが5年をかけて、安定して丸くなる系統として2006年に選抜したものです(写真1)。2012年から県内限定で生産が始まり、少しずつですが生産量も増え、毎年11～12月に販売されています。

(販売店舗一覧は県ホームページを参照

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0904/yasai/marukeiyatsugashira.html>)

生産が増えていく中で、市場評価の高い適度な大きさ、丸い形状の芋を効率的に生産できる栽培方法が十分に検討されておらず、生産の不安定要因となっていました。

そこで今回、商品性の高い芋を効率よく生産する方法を明らかにしたので紹介します。



写真1 丸系八つ頭（左）と八つ頭（右）

### 2 商品性を高める「丸系八つ頭」の栽培方法

#### (1) 商品性に優れる丸系八つ頭とは

丸系八つ頭は、芋の大きさ、形状によって規格が分けられており、取引価格に大きな差があります。商品性に優れる上位規格の芋は、芋の縦横比 1.3 未満の丸い形状のもので、L規格(重量 800～1,200g)とM規格(重量 500～800g)です。

#### (2) 上位規格を効率的に生産できる栽培方法

栽培の基本条件として、マルチ栽培で重さ 20～30g の種芋を深さ 7cm に植付け、追肥時に土寄せ 5cm を行いました。この条件で、栽植密度について、畝間と株間をそれぞれ変えて検討しました。その結果、畝間 1.2m は 1.0m に比べ、縦方向の伸長が少なく横への肥大が進むため、芋の縦横比は 1.3 前後と丸い形状となります。一方、畝間 1.0m の場合、芋の横方向の肥大が抑えられ、縦横比は 1.5 以上と縦長となります。また、株間は 20cm、25cm、35cm と広くなるにつれて、芋は大きくなり、形は丸くなります(表 1、写真 2)。

表1 栽植密度と親芋の大きさ、形状

畝間 (m)	株間 (cm)	親芋重 (g)	縦径 (mm)	横径 (mm)	縦横比 (縦径/横径)
1.0	35	612	141	94	1.51
	25	492	131	86	1.53
	20	455	133	82	1.62
1.2	35	642	127	101	1.26
	25	492	117	91	1.29
	20	444	114	86	1.32



畝間 1.0m

畝間 1.2m

写真2 栽植密度（畝間・株間）と親芋の形状

収量をみると、畝間 1.0m は栽植密度が高まるため収量は多くなりますが、畝間 1.2m とすることで商品性の高いL、M規格の芋が多く収穫でき、特に株間 35cm での割合が最大となり、収益性が高まります(図1、図2)。

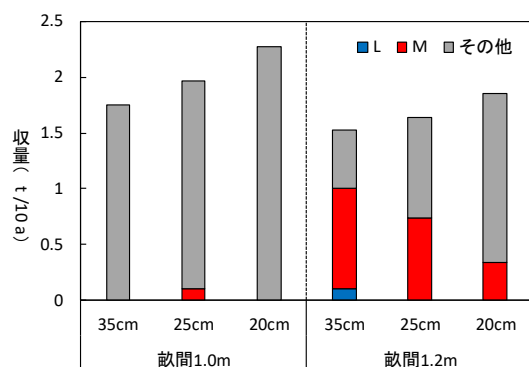


図1 栽植密度と規格別収量

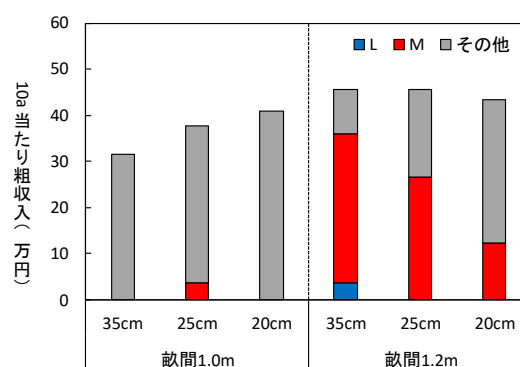


図2 栽植密度と収益性

以上から、畝間 1.2m、株間 35cm とすることで、商品性の高い芋を多く得ることができ、収益が高まります。

【問い合わせ先】

農業技術研究センター高収益畑作担当

電話：048-536-0311（代表） FAX：048-536-0315（代表）

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0909/index.html>